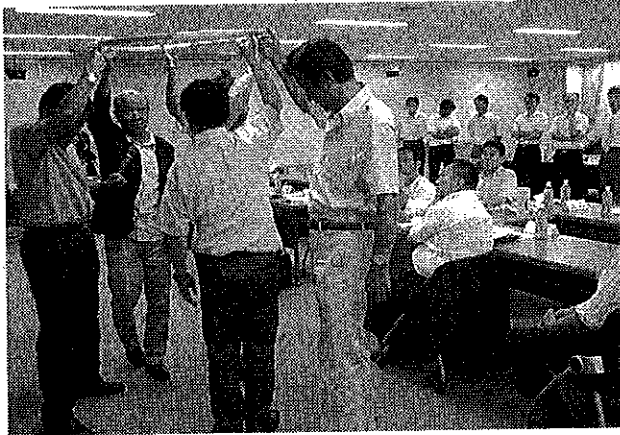




フィンランド生まれのチーム活性化のための教育プログラム「リ



フラフープを使ってチームワークを体感

「リチーミング」は、フィンランドの精神科が7月に東京・大阪で開催した。

医ベン・ファーマン氏と社会心理学者タパニ・アホラ氏が子供の心理カウンセリング手法として考案したが、1990年代前半の太不況の際、ノキアをはじめ各企業が人材再活性化

に今年4月、若手経営者で組織する二意会の通常総会後に特別企画として研修を受け、好評だったことから本年度の重点施策の一つとして人材教育の二環として東西で実施した。

ブザーバー5名が参加。研修は、チームを6〜8名で編成し、最初に一本のフラフープを一緒に指で上げ下げ、移動してチームワークを体感。同時に、チー

ら最優秀賞やヤル気賞が授与されたが、「考え方は複雑ではなく、整理できればいろいろなこと使えると実感した」(荒井裕一郎・曙機械工業専務)、「実際の仕事の面で参考になった」(乾英二・キラ・コーポレーション専務)、「劇的に会社が変わるのではないかと期待している」(市川敏彦・ハイデンハイ

人材教育の「リチーミング」開く

日小工

化のため採り入れ、フィンランド経済の復興を支えた。

今回の講師は、日本人として初めてリチーミングコーチ資格を取得したEPA総研社長の川西由美子氏。すでに

組織のチームワークを高め、一人ひとりのやる気上げる12ステップのプログラムに沿って研修を受けた。

東京では研修者30名、オプザーバー15名、大阪では研修者15名、オ

ムとして話をすることやルールの大切さも学習した。そこで得られた感覚と心情を日常の仕事ぶりと比較し、全く新しいチーム活性化を体感した。

終了後は、川西氏が

今回学んだことが実際の仕事に活かされているのかどうか、10月にはフォローアップ研修会を予定している。